

ヤイロチョウとわたし

私は終戦直後の昭和 22 年、まわりを標高 200m から 500m の山にぐるりと囲まれた盆地に生まれた。小学校の頃の周囲の山ははげ山同然で、おかげで中世城郭の郭の段差や狼煙道の堀切も手に取るように分り、田んぼの手伝いをしながら祖父から城山やそれらにまつわる話を聞いたものだ。山に木がなかった理由は、太平洋戦争中にことごとく国に供出したせいである。小学校の夏休み、宿題の絵を描くのは毎年どこかの山に登ってそこからの展望と決まっていた。それほど、どの山にも木がなかった。

我が家を取りかこむ山々の向こうに霊峰篠山が墨染めの異彩を放っていた。官山である篠山だけは杉松の植林が大切に残されて黒い森でいたのだ。その篠山も下流域の民有林は木のない山になっていた。そんな正木・大駄場の地に戦後復員した長澤は、毎朝暗いうちから家の防風垣にやってきて大声で鳴くヤイロチョウにたたき起こされたと述懐した。大駄場から西へ一山越えた増田・八人組の尾崎城一は数年前に録音したというヤイロチョウの声を、文化財保護委員をしていた 1999 年、事務局の私がヤイロチョウの情報を求めていることをしって聞かせてくれた。そして今は聞かれなくなったとも語ってくれた。山に緑は戻ったけれど、ヤイロチョウは逆に激減している。ヤイロチョウにとって理想的と思われる林相は、彼らを選ぶ生息環境要因のほんの一部でしかないと言えそうだ。捕食者、同じ餌をもとめて競合する他の動物、ミミズが土壤中で微細に物質分解した餌による健康影響も捨てきれない。

私のフィールドノートに記載されたヤイロチョウはつぎのようである。

1995 年宿毛市の後田が藤ヶ駄場で写真記録。この写真は篠山学習館に展示。

岡井と 2 人ヤイロチョウを探しにはいった森でクマタカの巣に行き当たり、その前に後田のカメラが設置してあった。

1997 年 5 月 21 日、大駄場で声を聞いたと 2 名の住民

毎年この頃から啼き始めるとの証言であった。農林業に従事するこの人たちは、朝食時間の 6 時半頃に毎朝聞くのだそうである。

1997 年 6 月 5-6 日、以前声を聞いたという替地を調査。確認できず。

大駄馬の別の住人で営林署の山仕事を請け負っていて年中国有林に入っている人。「以前はよく聞いていたよ」との話しであった。

1997 年 9 月 14 日、松ヶ滝上流、車で走行中枝から飛び去った腰のブルーはヤイロチョウではなかったか。

1998年5月23日、不老長寿の水の上流、路側の地面から飛び去った後姿の腰のブルーはヤイロチョウではなかったか。

この夏からクロツグミの声を聞き始めた。

ヤイロチョウ 2002年 K山

6月15日(土) 快晴 午後篠山の帰路リスの巣穴を確認するため、作業道へ

聞いたことの有るような、無いような声を聞いて困惑する。しばらくして思い出した、始めて生で聞く「ヤイロチョウ」の声、「ほ・へん、ほ・へん」と二声ずつ。甲高くなく、甘い笛のような感じ。

大きな声。ずっと鳴いている。

6月16日(日) 早朝より

林道終点、集材場所の右岸から聞こえる声。主に下流。

林道終点で口笛を吹くと、鳴き声はすごいスピードで上流へ。

下流を踏査。声は聞こえてこない。

常会対抗バレーボール大会のため10時帰路。

6月22日(土) 朝から

下流から上流へ歩く。ヤイロチョウが好みそうな林相、素晴らしい。声は上流で。

先週の声の移動から考えて、縄張り宣言をしている場所と営巣場所は全く違う場所かもしれないと思い、林道終点から徒歩で上流へ。10分程度歩いた所で、地上で採餌する黒っぽい鳥、双眼鏡で確認するとヤイロチョウである。300mmで撮影しようとするが、フレーミングできないうちに飛去。

600mmをとりに車まで戻り、再度現場に戻ったがすでに1時間を経過している。

発見場所から100mくらい手前で16時頃まで待つも、鳴き声のみ。

6月23日(日) 朝から

昨日の場所で待機することにして、機材を担いで登坂。

昨日発見した場所の少し下手で待機するが、気配がない。

一休みして、椅子を取りに車まで戻ると、口笛の音がする。もしやと下ってみると車廻し場で梅田氏が座っている。聞くと、口笛でヤイロチョウが出てきたとの話。

梅田氏を発見現場まで案内したが、氏は私の撮影の邪魔を心配して、20分ほどで帰宅。

その後鳴き声は下流の方からあがって来て、自分の直ぐ近くを更に上流へ。

1時間毎に50m位上流へ移動。三度目、昨日の場所から少し上手で、間伐をした人工林をヤイロチョウが歩いている。私に気づき、近くの広葉樹の枝に移動。様子見だ。動けない。向こうも動けない。20分程経過して私が動くと向こうも違う枝に移動。さらに10分程してこちらが動くと、向こうも同じ場所で私を監視していたのか、今度は声を出して移動。今度の移動は大きく、波状飛行を二度見せて、樹木の向こうに消えてしまっ

た。

営巣場所に近いらしい。

その後待機するも、気配を見せない。

考えているうちに、地上すれすれのロボット撮影を思いつく。15時過ぎ、急遽機材を片付けてカメラのキタムラへ2セット注文。

7月7日(日)

実代と共に、新規購入の赤外線センサーと中古Eos 55をセットしに、郡民体育祭開会式を終えて出発。1セットをセットするのに12時過ぎまでかかる。赤外線が合致しない。やはり三脚が必要か。1セットのみであきらめる。

7月9日(火) 夕

台風接近のためロボットカメラ撤去。心配したとおり、センサーがずれており、立ち木に括り付ける方法ではまずいようだ。レンズもファインダーも結露している。レインカバーも役立たなかった。カメラのバッテリーは完全に切れている。

7月11日(木) 午後

22日の発見場所で待機。夕刻まで待つも、それらしきシルエットを一瞥したのみ。

7月20日(土)

同上付近で観察。逢えず。遠くでヤイロチョウの声一度。雛をつれて移動したと思われる。

7月21日(日) 早朝より

22日発見場所まで行かず、旧馬車廻し場にて10時まで。

一度頭上に飛来したシルエットがヤイロチョウに見えたが。

7月27日(土) 早朝より

台風11号が九州南西部を西進中。小雨につき早々に退散。ヤイロチョウの姿・声無し。

7月28日(日)

10時 カセットを娘に持たせて、最後の手段。テープを流すが、スピーカーが無いため音量が小さい。

午後 車のスピーカーを使い、林道終点で1時間テープを流しつづけるも反応無し。

7月20日に聞いた声は、巣立った雛を連れて、営巣場所から離れる声だったのか。巣立ち後は涼しい場所を求めてもっと上流へ入った可能性も考えられる。

2004/05/22(土)高曇り

ヤイロチョウがやって来る時期になった。目星をつけていた大駄馬から奥の自然林を探索することにした。大駄馬の最奥のおじさんに「ヤイロチョウはまだ聞きませんか」と問うが、「6月になってからだろう」と言う。20数年ぶりに用水路沿いを歩いてみる。人工林を抜けて目指していた自然林にはいると、

ヤイロチョウが好みそうな林相である。すぐにイノシシの足跡が目立ち始める。なかなかの状況である。ホヘン、ホヘンと口笛を吹きながら歩いてみたが、反応はまだない。羽後山に続く人工林で断念して引き返す。一度帰って、地図を持参して県道及びその上の山から確認してみると、用水路沿いの歩道から上に自然林が広がっている。撮影するには、この傾斜を機材を運ばなければならない。かなり厳しい行動を強いられそうだ。今日はヤイロチョウだけを念頭に来ている。山北側の林道もすべてチェックしながら下る。2本目の下谷林道はかなり良い雰囲気である。京法へ抜ける林道は急勾配と、離合できない悪条件ながら、一部良い林相がみられた。持ち帰っているセンサーカメラは、ヤイロチョウの声を聞いてからセットしてみよう。

2004/06/05(土)曇 芒種

今日もヤイロチョウ狙いだが、〇池のカワウソも放っておけない。5時〇池をパトロールして床滑でチェックの後大駄馬に到着、時刻は5時半。どん詰のご婦人が田廻りに出てこられたので、ヤイロチョウは聞こえませんかと問うと、ヤイロチョウは知らないが、シロペン・クロペンは反対側で歌っていたと言う。先週から目をつけていた町道太田線の方向である。勇躍足を向けるも確認できず。

2006/05/31(水)

散歩の後半、かすかにシジュウカラとは違う「ツピー、ツピー」という声が聞こえてきた。なにか聞き覚えのある声だと思うものの、思い出せない。だが、その声が次第に大きくなってきて、はっと思い当たった。ヤイロチョウだ。「ピィフィー、ピィフィー」と聞こえるところまでは近づかなかったが、懐かしいあの声だ。2-3分のあいだに遠ざかってしまったが、飛んだコースは円座の山



を南から北へ、だった。昨年

の5月末には同じ散歩コースでアカショウビンを聞いている。普通の人々が会うことのできない自然、本当に良いところに住んでいることを改めて実感した。